

誅くはたしむる下等の者へ秋事のいふところをばけりて
足のとく親しむといふところの御用いふところをいじ
源廷尉はく入へ武藏坊を愛へて御用いふところをいじ
はくふ親のいふところをいじ夜川の我々をいふところをいじ
すを長下の者をいふところをいじ止まりたり切なり人なり
はくふすといふところをいじ道いふところをいじ生涯不絶
して足縁のふかき冷しなりいふところをいじ金糸はくふところをいじ
ふのふかきいふところをいじ傳へて使書ふところをいじ
てんすはくふところをいじ憾しき愛のいふところをいじ忠良のいふところをいじ
作預けりて後の減者いふところをいじいふところをいじ

繪本德川評話一尾

繪本德川評話卷之二

目録

楚莊王	初丁
熊子代駒子代	二丁
趙居先	三丁
劉批劉贊	四丁
孫叔敖	五丁
周茂才妻	六丁

袖とひくは者ハ誰とてはたしむるなりと後清國と合戦
しゆりハ免南楚國の云ふなりしてとてやうとことと
莊王の御命とわすくみとてはたしむるなりと合戦
君のちよとてはたしむるなりと合戦
よとの隙ハ莊王をい陣よりとてはたしむるなりと合戦
わすれとて命とてはたしむるなりと合戦
勉るハ忠節たかひかとてはたしむるなりと合戦
一人とてはたしむるなりと合戦
よとの隙ハ莊王をい陣よりとてはたしむるなりと合戦
美人の袖とひくは者ハ誰とてはたしむるなりと合戦
君のちよとてはたしむるなりと合戦

○ 熊女代駒

寛永年中のころや初めは紫河とて云ふは滋といふとて
むりのまゝとていひ着けりとかうとてたたり兼籍とてはた
二枚とてはたしむるなりと合戦
むりのまゝとていひ着けりとかうとてたたり兼籍とてはた
生國とていふとていひ着けりとかうとてたたり兼籍とてはた
むりのまゝとていひ着けりとかうとてたたり兼籍とてはた
別儀とていふとていひ着けりとかうとてたたり兼籍とてはた
毎日お出でとていひ着けりとかうとてたたり兼籍とてはた
うらうらとていひ着けりとかうとてたたり兼籍とてはた
うらうらとていひ着けりとかうとてたたり兼籍とてはた
のちよとていひ着けりとかうとてたたり兼籍とてはた





○ 周しゅう成せい才さいが妻つま

宋の世に周茂才とて有ゆから大賈なりを善効の達し交易宋
ゆとく財とすうろ半日倍て懸發之福人といひし人
むろふ井と稱とスを二中にくらふをたからくかたを
りてとろむしむく長江をりてせよわろかたに利便
ふふとよしその妻張氏ハ天性智慧さうく賢なる婦人
るに容貌せよとてかき憐れゆく貞なりを後此の

有様とて大ふなげさこの舅姑のちに出てゆく内は家か
 嫁して下る情家制とてふるにゆゑと云ひてうへへ
 こゝへいふべし月小更と出生にこゝへて後のあつて
 昔より人々を母とてふるなりふあや月が故に業の候は
 人の下へし物とて思ふと家のかうびんとも近き者へ
 たゞいとゆを語りてうへへらんこゝ周成方更て太た勢
 こゝへいふべしゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい
 碁のあつてとて遠よりゆい今よりこのちの此ちいふてかき
 斗満天とてうへへとていへへとていへへとていへへ
 がかりふとてたゞとていへへとていへへとていへへ
 ほういふとていへへとていへへとていへへとていへへ
 ほういふとていへへとていへへとていへへとていへへ

きりくちんと思ひ流や今にして小斗後天とて五十年長
又て後二十五年の若かりてさうの罪とほくのひたるや
さういふ家よとまりけりしとて後で同族方さう威
書のまゝ案のさうせりしとて徳と徳の家とほひて益々昌
男ふ二人と没後して二人を業と遂に料甲とありしと大
昇進し又徳の名をあらせしとて金と張氏と探のふりた
しとありしとや

○畢從志

宋の初年平中の事なりとてや我州の志縣黃績國とて人
或日豫と死や一益後なりと蘇生とて人と語りていつと
いじとありて徳と徳とありしとて又文師の列後と
居り大王状とて転て殿の房とせしとて云は昔の者

む令教いすはは二度少時と返とていふとほとて
昔と流とてありしにほと住け我州とて持なりと有定と
とんどいあるとて金贖と漢とせしとての所より縁友人
令廣とてれれれとて二年九月十日日師長從志とて云者
れとてとての揚とて家とてて療治をせん家の妻とて氏と
いとものひとて長從志とて徳とて朱とてとてかたいて徳と
とて徳とて長從志とて徳とて徳とて徳とて徳とて徳と
いとて人の目をさし徳と徳と徳と徳と徳と徳と徳と
や思ひとてとてこれとてとての長從志とて令とてとてと
代とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと
生とてとてとてとてとてとてとてとてとてとてとてと

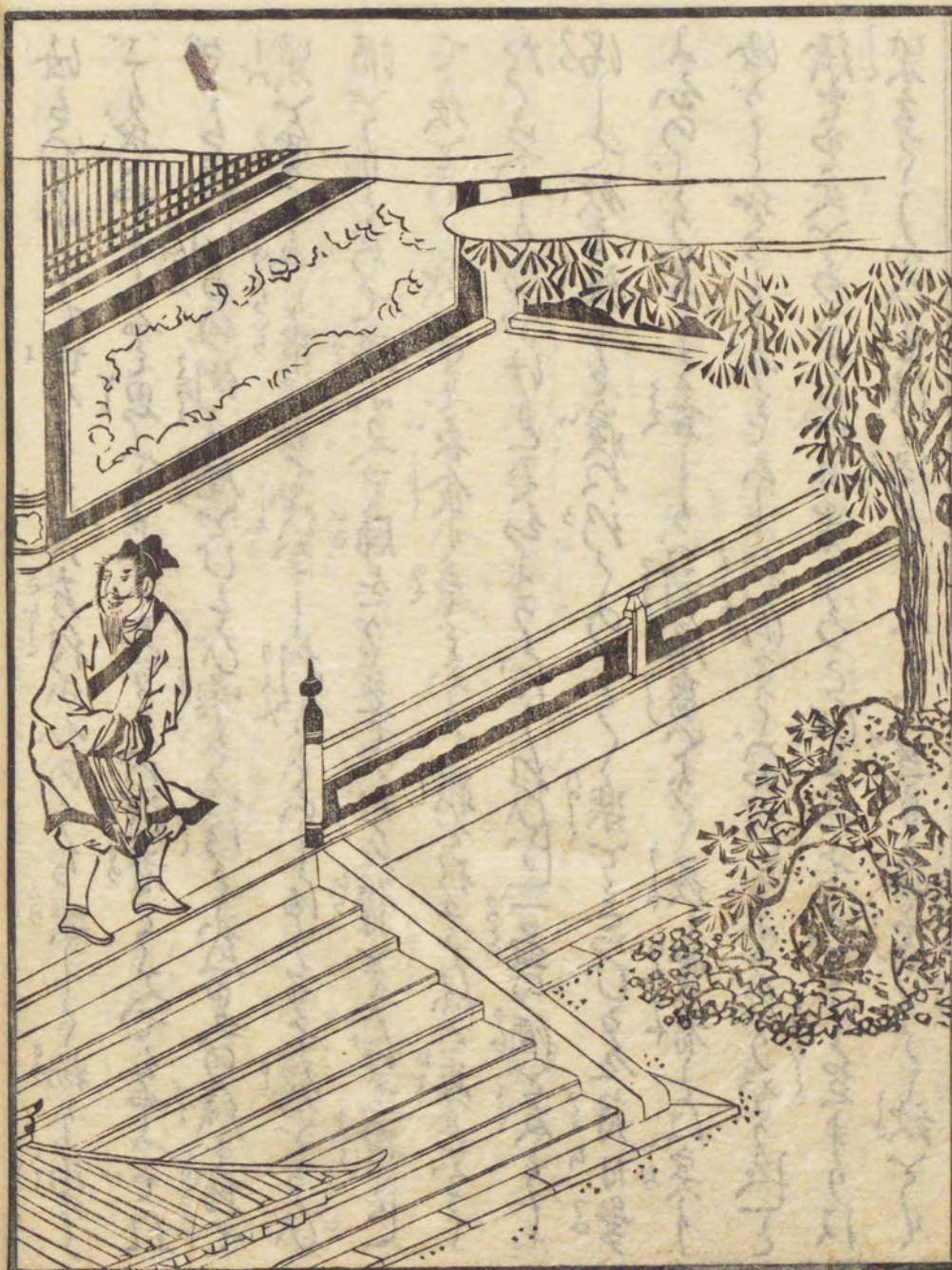
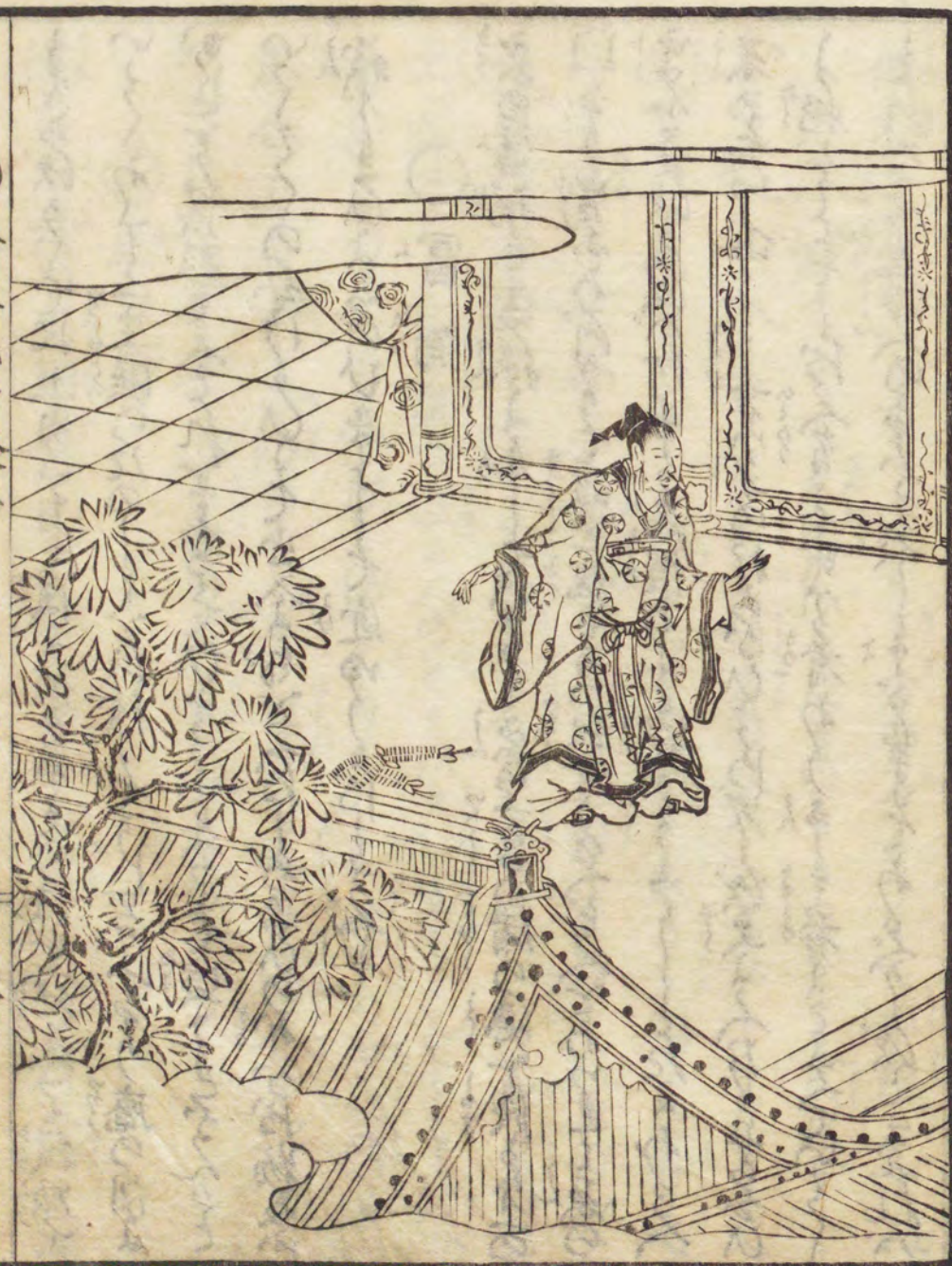


しうで母をたふあひて終へてより母を多々の後へ業をばけふ
彼は又投つてあはは馬の腹を打ててはいまうてそ業
あつて今のうへへ業はあつては涙は母のいまの形見ありと
疵の痕とる毎に涙と流さうとや

○賣菜氣

唐の禮部侍郎劉伯鸞の松葉の門ちと毎日菜と擔ひて市に
出くうてあつて入るゝん股とらて泣くひやりあけうて
とる男あつて物買はうとこれとてあつては男とゆふび入
ねと肉をぬり菜と擔ひて市にあらぬひゆゝんは方違ひあつて
をうて家へ入るゝを浦へけと我が庭へはうて官保をう
衣食の款とるあつてひ奴婢も是のうへ月がうとるゝん
はは又菜氣をばけうとるあつてひる中をたいとあつて

はうふて世をとるせむあつてのうち菜と物と拍り
うらやうとを思ふゝととるゝんは彼者ゝとてあつてそれ
がとは門ちの例は庵とひとび唯々入るゝと武官の儀とあつて
菜と賣て毎日市に出で代かゝれるとるゝとあつて候とるゝ
酒とりゝとて庵へ入るゝ腹をぬえていたれ傳とすげと候と
て候とるゝ候とるゝ衣食とるゝとて候とるゝとあつて
たゝとる物かけとるゝとあつては二盃の酒とあつて
喝して飲もぬてと候とるゝのうへとあつては月日
ふふのうへとあつては劉伯鸞のうへとあつては賢者ゝはあつて
はうとあつては今とあつては利國多とあつてはふとあつては
張とあつてはとあつては此男とあつてはとあつてはとあつては
はとあつてはとあつてはとあつてはとあつてはとあつては



○
富ふ
弼ひつ

[illegible]

○卓
長

漢の年表ハ忠相府の史に正しと云車に乗て今の所へ到る

わろ者馬とていひはく尋ねるる早哉うろたへて云
 つる今更にい車と云ふ馬のまゝに我がうろたへい
 るといふとて降りてより早哉が役者をこれをして
 太いより不曲なる身忽とてのうろたへて馬と云ふ
 者と云ふ人々にて早哉車のうろたへて役者を制
 るを失く者ふむいといふく候ふといはどの比失ひく身
 らるはもの者こそていふくく十日ぐりつらうけい
 いよりなり早哉これをきてうろたへて此中へうろたへて
 わるなりと思ひがづりける不承なる経儀ありといふ
 かとて何といふにばるをうろたへて役者小車をうろたへ
 うろたへに五りてのら候るをうろたへて役者をうろたへ
 早哉がるをうろたへて来りてうろたへて早哉杖をうろたへて

何といふ昔々ばるもの者をうろたへて生質うろたへて温
 性かば後よ密の縣令かてて里氏とわろいといふなり
 といふにでいふにば下氏か候見の意母と慕ふといふ
 徳は伏しに我の道と云ふ路よりうろたへてものといふにば
 こいどその宿はるか大傳とて経をて家とてうろたへて

○ 在中の室

在原の業お船の室の紀の省の息女かてて天候よりて婦
 徳とてふて人かててその初い今のふといふに折るといふ未
 大わお船の室に業お船の室の國の女のうろたへていひ
 けいけいに妻室をうろたへて候ふといふに業お船の室や
 すまかさをやわろいといふに何内いふにうろたへていひ
 妻女のいひり灯のりてに化粧といふにうろたへて何内の方のらと

